

メディア（LINEヤフー、NHK）への聞き取り結果（1/2）

- 中間とりまとめについて、防災の観点から、防災関連情報を発信しているメディアであるLINEヤフー(株)及び日本放送協会へのヒアリングを3, 4月に実施。データ利活用等の観点でご意見・ご示唆をいただいた。

【データの提供仕様・ライセンスについて】

- 災害時に使うようなデータにムラがあるのは良くない。**最新のデータが全国一律の仕様で公開されていることが重要。**
- 原典提供者によって、**二次利用の可否が異なるのは使いづらい。**
- データを活用する側にとっては、なるべく原典資料に近い形での提供が望ましい。一度合成などしたデータは分離できないことが多いため。**ユーザーや使われ方を意識したデータの提供が必要。**

【Webサイトのユーザーインターフェースについて】

- 国土数値情報の提供サイトのユーザーインターフェースは改善の余地がある。最新版以外の過去のデータも検索すると拾ってしまうため、利用者の混乱を招くことから、**アーカイブとして最新版のデータと過去のデータは分けておくべき**である。

【原典データ提供について】

- 国土数値情報のようにオープンデータにする作業にコストをかけなくて良い状態が望ましい。
- **原典データ提供者側でシェープファイルやCSVなどGISで使えるデータを整備し、そのまま公開されるようになることがDXの潮流の中では理想的。**原典データがオープンデータ化される前提で作られていないことが課題。
- 原典データを良くしていく取り組みが必要で、**バリデーションツールを配布**するなど原典データ提供者側でデータをきれいにすることが大事。
- **ブラウザベースで自治体職員でもデータを見てチェックできるツール**があるとよい。自治体を巻き込んでデータが提供されてくる仕組みづくりが大事。かつ自治体に過度に負担をかけない工夫も必要。

【データの修正について】

- データの不備指摘に対するフィードバックをスピードアップするとともに、不備修正のリソースを増やしてほしい。また、データのメンテナンスについて、シビックテック的なこともいれたい、正しいデータであることを高めてもらいたい。
- データに不備があり得るという前提のもと、不備修正を早くするため、不備修正のスキームを整えることがデータを良くするためのポイントと考える。
- データの利用者が増えることで、不備も多く発見され、指摘がフィードバックされてデータが更新されていけば、よい循環になると思う。いかにその流れを作るかが重要と考える。
- 市区再編など予め更新後のデータが決まっているものは更新後のデータを先行して提供できるとよい。

【データ整備の新しい手法（AI活用等）について】

- 重要で間違いがあってはいけないデータは難しいだろうが、読み仮名など間違いに多少の許容度があるようなデータであれば、整備手法も時代に合わせてまるやかなものを考えていっても良いと思う。
- データのメンテナンスにコストがかかることは承知しており、メンテナンスにAIを活用していくこともあり得るのではないか。

【データの提供について】

- 最新データの一括ダウンロードを可能としたり、最新のデータをわかりやすく表示するなど、使いやすいうようにしてほしい。
- データの置き場が散らばっていることは課題。地理院には基盤地図情報、都市局にはPLATEAUがあるが、一緒に提供すればよいのではないか。
- データのワンストップ化は事務局として積極的に活動してほしい。